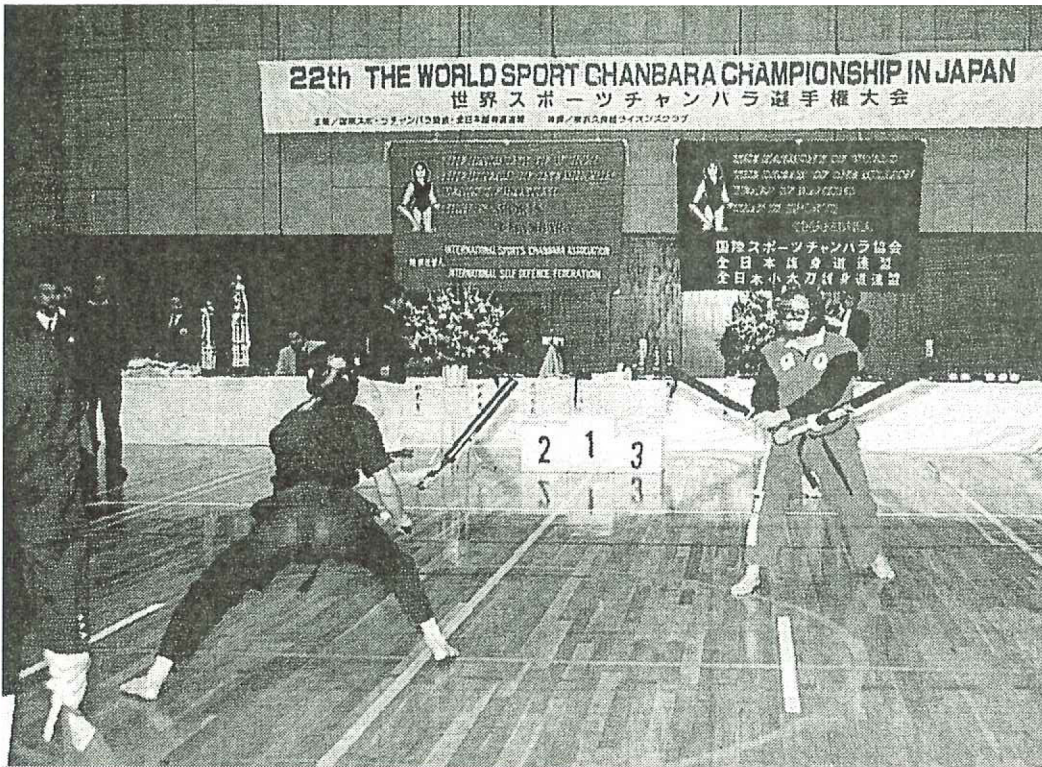


気分は十兵衛か武蔵か

スポーツチャンバラ



「チャンバラ」と聞いた 騒ぎだす。棒切れを振り回すだけで悪童だった頃の血が して群がる敵をバツバツ



夕と斬り倒していく、あの快感。気分はまさしく柳生十兵衛か、宮本武蔵か、だ。このチャンバラの楽しさを、ニュースポーツとしてリメイクしたのが「スポーツチャンバラ(略称スポチヤン)」で、横浜市の田邊哲人さん(五巴)現国際スポーツチャンバラ協会会長も、昭和46年に考案した。現在では国内だけで約16万人、アメリカをはじめとする海外でも37カ国、約6万人の競技人口を数えるまでに普及している。形にこだわらず、短刀、小太刀、長剣、やり、なぎなたなどの武具を使って、文字通りチャンバラを楽しもうというスポーツで、3

カルチャー教室講座にも登場

国内外で22万人の競技人口

防具は面と甲手だけ。刀、師範代で4段の佐野好身も、エアソフトと呼ばれる柔らかい棒状のもの、強く打ってもケガの心配はないなど、安全面を重視している。大阪スポーツチャンバラ協会の理事長の袖岡一禎さん(五巴)はスポチャン6段。泉南市にある剣道場・有朋館の主で、剣道、空手、スポチャンなどの指導にあたり、

「教えるのは基礎的なことだけ。あとは自分流の構え、打ち方を工夫して実戦に生かせるところが形に縛られる剣道にない魅力」と袖岡さん。「本来は護身道。守りを重視し、身を捨てての相打ちが下策」とも

「教えるのは基礎的なことだけ。あとは自分流の構え、打ち方を工夫して実戦に生かせるところが形に縛られる剣道にない魅力」と袖岡さん。「本来は護身道。守りを重視し、身を捨てての相打ちが下策」とも

「教えるのは基礎的なことだけ。あとは自分流の構え、打ち方を工夫して実戦に生かせるところが形に縛られる剣道にない魅力」と袖岡さん。「本来は護身道。守りを重視し、身を捨てての相打ちが下策」とも

「教えるのは基礎的なことだけ。あとは自分流の構え、打ち方を工夫して実戦に生かせるところが形に縛られる剣道にない魅力」と袖岡さん。「本来は護身道。守りを重視し、身を捨てての相打ちが下策」とも

0724・83・2052

(佐保川 圭)